

少子高齢化の日本・・・将来、日本人は居なくなるという悲観的な極論も出ています。
昨今、急激な人口減少に依る事実は認めなければいけません。

20年前と現代の男性、女性の結婚観の違い・・・男性よりも女性の方がはるかに、現実的で結婚に対する見方は、男性よりも厳しく感じられる。それかあらぬか40歳から60歳頃迄の男性の独身者が全国的に増えていることでも、結婚観の男女の違いを如実に物語っています。。

最近、年配の未婚の男性の家庭内外の暴力事件も、そこに起因している様な気がします。

私共が、若い方達の結婚へのお力添えを思い立ったのは、大きな理由があります。

私共、岡山での事業開設致しましたのが昭和40年、当時は町も村も何処に行っても、多くの子供達の元気な姿が、目についたものでした。又、昔乍らの古典的な木造校舎の凜とした、たたずまいの中で勉学に勤しむ子供達の元気な姿は忘れ難いものでした。

それから10年後頃には、早や児童数減の徴候が各学校でも、話題になる様になりました。

まさかと思っていたことが年が経つにつれ現実となり、瞬く間に生徒数減により廃校、そして併校、岡山市の淋しい教育事業の実態が現実となり、将来が思いやられる事態となりました。

それは全国の自治体のどこの学校でも児童数減という現実が見えてきました。

各学校の先生方にお話しを聞いても只淋しいの一言でした。

私共、平成年になり、多少なりとも少子化対策の一環として、一組でも多くのカップル誕生を目指し[ブライダルサロンえぐち]を発足させ、平成年間に約80組のカップル誕生にお力添えし、その後多くのお子さまに恵まれて幸せにお暮らしのこと、媒酌人としてこの上ない光栄に思っております。

之からも一組でも多くのカップル誕生を目指したいと思っております。

ご希望の方がおられましたら、私方へご本人の履歴書とも云える釣書をご送付下さい。

私共は何時の時代でも 只、真面目にをモットーに頑張っております。

江口産業 ブライダルサロンえぐち

子を持つ親の資格

若き頃、ある若き哲学徒が人生とは何ぞや、(曰く不可解)と言って華嚴の滝に飛び込み自殺した。戦前戦後の混迷とした悩み多き時代でもあった。

最近、パキスタンのマララさんが、命を賭してすべての子供たちに学問をと世界の人々に呼びかけています。その真意は智に依る世界の平和だと考えます。

子を持つ親は、人々に愛される子供を持ってこそ、親としての資格ありだと思えます。

最近、成長期に不祥事を起こしたり、起こされる児童・生徒が多く、大きな社会問題となっています。何か問題が起きたら、凡て学校の責任だと当事者は訴える。その様な考えを持つ親にこそ一番の問題がある。

私達の少年期は小学校で一クラス53人前後の児童数の多い時代でした。若き担任の先生は師範学校卒の先生で純粋に子供達を愛し、又、厳しく悪い子には体罰もあった。体罰を受けた子は家に帰って親に話したかどうかは分からないが、後日、学校に苦情を言うてくる親は一人もいなかった。それだけに先生は信頼されていたのかもしれない。

学校は勉学の間、家庭は子供を育てるの間との正常な社会の正しい風潮の時代を今後も望みたいものです。

昔からの諺に三つ子の魂百までと言い伝えがあります。それは幼児期に教え躰けられたことは幾つになっても忘れないと解釈します。人の世には正しい事と正しくないことと二つの大切な道があります。その行いによって自分自身だけでなく、回りの人迄幸せにしたり不幸にしたり、二度と取返えしのつかないことが起きます。

幼児期に育った環境や躰はその人の人生を大きく左右することになります。それぞれの子供は自分で親を選べません。生まれてくる子は、無垢で清潔で何の穢れもありません。それだけに子を持った親は子供に対して一生の責任があります。その責任を負えないような親は子を持つ資格はない 当然のことです。

最近一人親の世帯が多いと聞きます。その理由は様々でしょうが子供にとっては決して良い事ではありません。子供たちが成長するにつれ、自分の置かれた立場を身に染みて感じる様になるからです。

両親が揃っている家庭を見るにつけ何かにつけ、幸せそうに感じるのは人として当然のことです。

子供はその様な環境の中から親に対する不平不満、社会に対する恨み反抗などの感情が生まれることを大変危惧します。

結婚とはお互いの人生を苦楽を共に生涯を通じて乗り越えて行くものではないでしょうか。

